

2004年9月末の台風21号の豪雨により生じた宮川流域の堆砂状況

< 柏木 健 司 >



説明：災害前後における、宮川流域のうち春日谷との合流点よりも約400m下流の状況です。災害前後の同じ地点の写真から、台風21号による豪雨以降、宮川流域にたまった土砂は、少なくとも厚さ2m前後に達します。写真の位置は、本文中(柏木・永田・常盤)の第3図に示されています。

3 2005年12月



4 2005年12月



説明：災害前には、露岩の表面を草が覆っていましたが(口絵写真1の左上)、災害時に激流で洗い流されてしまいました。2005年末の時点では、草が転々と露岩表面にわずかに残っています(口絵写真3)。また、その場所から上流側を望む写真には、露岩を覆って厚い砂礫が広がっています(口絵写真4)。災害時の激流がいかによごったか、災害前後の写真が具体的に私たちに語りかけてきます。